

大会スローガン

● 拠出金負担に50%の上限、現役世代の負担に歯止めを

わが国の医療費は、人口の高齢化や医療の高度化により年々増加しており、特に高齢者医療費の増加が顕著である。それを支える現役世代は、この過重な負担により、生活は脅かされ、もはや限界を超えている。公平性、納得性を高めるためにも、拠出金負担に50%の上限を設定し、上限を超える部分は国庫負担とするなど、現役世代の負担に歯止めをかけなければならない。

● 高齢者医療費の負担構造改革の早期実現

国民皆保険制度を維持するためには、医療保険財政の安定化が最重要課題である。このままでは、制度の維持はおろか制度の破綻を招き、国民が平等に医療を受けられなくなることは明らかである。国民の生活が今後も正しくあり続けるため、さらに将来世代のためにも、現役世代の負担軽減や高齢者に応分の負担を求めるなど、高齢者医療費の負担構造改革を断行すべきである。また、消費税率の引き上げや税制の見直しにより必要な財源を確保すべきである。

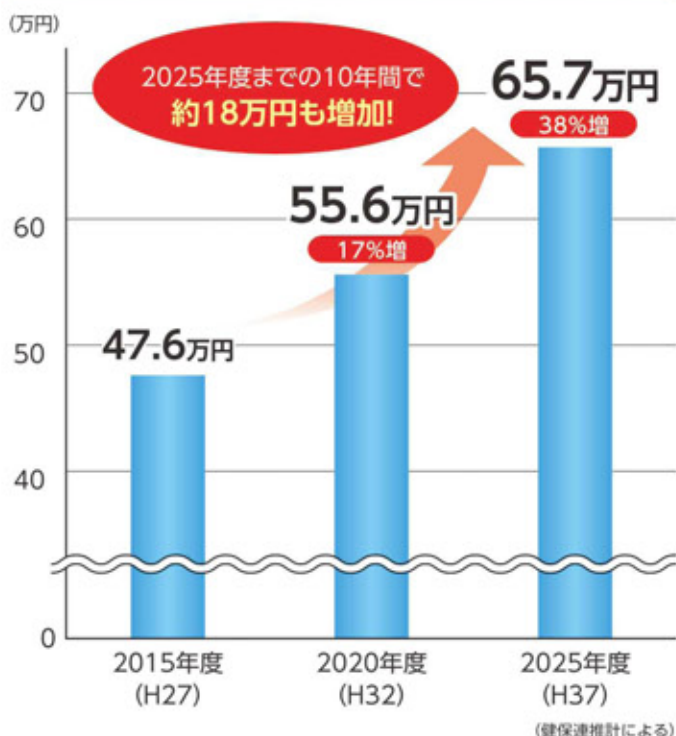
● 実効ある医療費適正化対策の確実な実施

増え続ける医療費を抑制し、限りある医療資源を効率的に活用するためには医療費適正化対策が不可欠である。過剰な急性期病床の削減や地域包括ケアシステムの早期構築を中心とした医療機能の分化・連携の推進、後発医薬品の更なる使用促進などの薬剤費の適正化、保険給付範囲の見直しなど国全体であらゆる方策を通じて医療費の伸びを抑制すべきである。

● 生涯現役社会を目指し、保健事業等の積極的な推進

「生涯現役社会」を後押しするため、健康な高齢者に「支えられる側」から「支える側」に加わってもらうことが重要になる。高齢になっても健康で働き続けることができるよう、保険者は前期高齢者を含む加入者への保健事業等に積極的に取り組まなければならない。健康保険組合は、自主・自立の組織として、事業主と連携・協力して加入者の実態に沿ったきめ細かい健康保持・増進、疾病予防等の効果的な保健事業を推進するなど優れた保険者機能を発揮してきた。これからも全力で取り組む決意であり、この保険者機能の発揮に効果的な健康保険組合を将来にわたって維持・発展させるべきである。

1人当たりの年間保険料



拠出金負担に50%の上限

